

みんなで作る インクルーシブな あかし

すべての人が自分らしく生きられる
インクルーシブなまちづくり条例
パンフレット

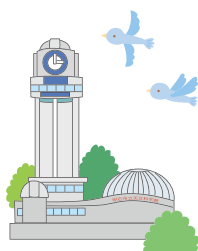


私たちは、それぞれがいろいろな個性を持っています。
肌や髪の色、年齢や障害の有無などは様々で、一人ひとりが違う存在です。

そして、一人ひとりが大切な存在です。

すべての人にやさしいまちづくりを進めている明石のまちで、
みんなが自分自身を大切に、自分らしく生きられるようになってほしい。

みんなで一緒に、そんなまちにしていきたい。
そんな思いを込めて、「あかしインクルーシブ条例」が作られました。
みなさんもこの本を読んで、明石のまちのこれからを
一緒に考えてみませんか。



この本の登場人物

ワケナイさん

やさしいまち明石の住人。
食べることと
動物が大好き。
飼いネコのインクルと
一緒に暮らしている。



インクルちゃん

ワケナイさんと一緒に
暮らすネコ。明るくて
いつもハイテンション。
関西弁を話す。



／ いろんな立場の人が集まって話し合いをしてきました ／

あかしインクルーシブ条例検討会の皆さん



この本のねらい

- ・「あかしインクルーシブ条例」のことを知ろう！
- ・みんなが自分らしく生きられるまちのために自分に何ができるか考えてみよう！

今こそ、やさしいまちづくりを



目次

P4	インクルーシブって何？	P10-11	まちの中にある工夫を見てみよう
P5	SDGs とインクルーシブの関係は？	P12-13	もっとお出かけしやすいまちに
P6-7	あかしインクルーシブ条例とは？	P14-15	インクルーシブが もっとまちに広がっていきます
P8-9	私たちにできることは？	P16	そして、まちづくりはつづく…



明石に暮らすすべての人が
「このまちに生まれてよかった」
と思えるように、
この条例を作ったんだよ。

よっしゃ、楽しみやな～
みんなも見てや！



インクルーシブって何？



インクルーシブの意味

つむぎ	くみこむ	へだてない	やさしい
あんしん	みんな一緒	はいりょ	
わかりやすい	ほうせつ	包摂	

いろいろな意味があるね！

インクルーシブなまちづくりとは

みんなが参加して一緒に暮らしやすいまちをつかっていくということです。

どれがインクルーシブかな？

地域社会での人との関わり-4つのパターン

1 排除
exclusion

少数者を多数者の集団から外す考え方

2 分離
segregation

多数者と少数者を別々にする考え方

3 統合
integration

多数者と少数者が分かれた状態で同じ環境にいる

4 共生
inclusion

障害の有無、性別、年齢、国籍などに関係なくお互いに支え合いながら誰もが暮らしやすいまちをつくること

SDGs とインクルーシブの関係は？



SDGs は国連で採択された世界共通の目標で、「貧困をなくそう」「人や国の不平等をなくそう」など 17 のゴールがあります。2030 年が目標の期限になっていて、誰一人取り残さないという理念のもとで、みんなで取り組むことになっています。世代を超えて、すべての人が自分らしく生きられる社会を目指すところが、条例と共通しています。

今回の条例も、SDGs の考えがぎゅーっとつまっているんですよ。

大学の先生
あかし SDGs 推進審議会 会長
坂下さん

SDGs 未来安心都市・明石 ～明石市が目指すまちの姿～

いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで

いつまでも

まちの好循環により、未来につながるサステナブル(持続可能)なまちづくりに取り組みます。

やさしいまち

SDGsの理念である経済・社会・環境の統合的向上を目指し、ハード・ソフト両面からやさしいまちづくりに取り組みます。

すべての人に

年齢・性別・障害・国籍などに関わらず、すべての人が安心のインクルーシブなまちづくりに取り組みます。

みんな

市・市民・企業などが一丸となってみんな(パートナーシップ)で目標の達成に向けて取り組みます。

あかしインクルーシブ条例とは？



この条例では、障害のある人や高齢者だけでなく、支援を必要としている人のことを「障害者等」と呼んでいます。その理由は、障害のある人がこれまでの歴史の中で差別を受けてきたこと、そしてその差別をなくすことを目指して明石市がやさしいまちづくりを進めてきたからです。障害のある人が暮らしやすいまちを考えることは、誰もが暮らしやすいまちを考えることにつながります。

基本的な考え方

① 要支援時の確実な支援

社会的な孤立を防ぎ、すべての市民が安心して暮らせる社会を目指します。



災害時の避難もみんなで協力しよう

③ インクルーシブ理解の広がり

インクルーシブという言葉や考え方を理解してもらうため、わかりやすく伝えていきます。



小学校での福祉体験教室

② 障害者等の社会貢献

「支援される人＝弱者」と考えるのではなく、支援される人たちが自ら考え、関わっていくことで、地域社会にとって良い効果を生み出すと考えます。

④ 個性を生かした能力の発揮

誰もが最大限の力を発揮できることが大切であり、その人の個性が尊重される社会を目指します。



大学の先生
明石市障害者の差別の
解消を支援する
地域づくり協議会 会長
北野さん

理念を掲げるだけでなく、実現していきましよう！

主に取り組むこと

① あらゆる差別の解消

いかなる理由があっても差別は認められません。あらゆる差別を解消するために必要な取組をまちのみんなで進めます。

② 障害等のある人と一緒に

障害がある人などと一緒に話し合いながら、取組を進めていきます。何が必要かを聞いたり、これまでやってきたことを検証したりします。

③ 情報の利用

障害者等を含む誰もが、必要な情報を得ることができるよう工夫することが大切です。市は多様なニーズを把握し、適切に情報を提供できるように取り組みます。

④ 市、市民、事業者など関係機関の連携協力

市や市民、事業者などは、お互いに連携協力し、一体となって、インクルーシブな取組を推進します。市は中心となって、これらの連携を進めます。



どれも、とっても大切ですね。ここに書かれていることをちょっとでも覚えてくれたらうれしいです！

⇒ 障害者配慮条例



障害者団体で働く 石田さん

⇒ インクルーシブアドバイザー制度

p12-13 で紹介

⇒ 手話言語・障害者コミュニケーション条例

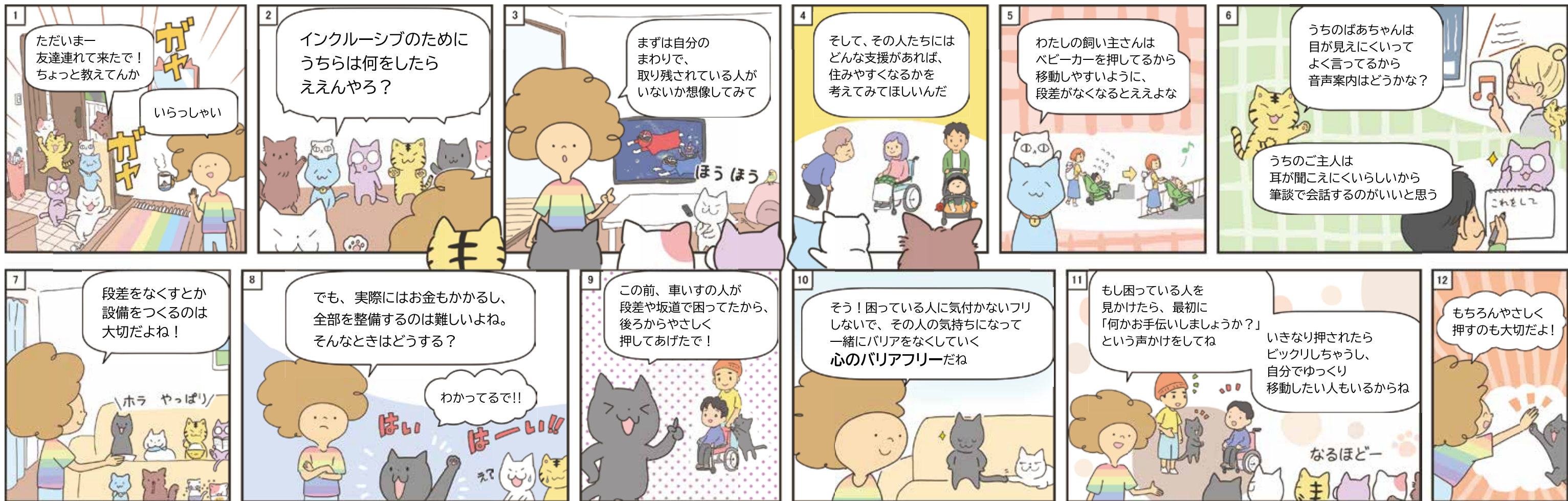


みんなが必要な情報を受け取れるよう、適切な情報提供をお願いします！



耳に障害のある 嘉田さん

私たちにできることは？



バリアフリーって知ってるかな

バリアは英語で、^{しょうへき}障壁（かべ）という^{いみ}意味で、この障壁をなくす（フリーにする）ことをバリアフリーといいます。

^{みぢか}身近にあるいろんなバリア（障壁）

物のバリア	道路や建物などで移動するときに不便があること
情報のバリア	情報の伝え方が不十分で必要な情報を得られないこと
心のバリア	障害のある人を差別したり、無関心であること

では、**こういう時どうしたらいいのかな？**

声をかけてみよう

困っている人を見かけたら、「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけてみよう。



^{はくじょう}白杖を^{ずじょう}頭上に^{かか}掲げている人がいれば、SOSのサインです。

段差があって通れない！

^{くるま}車いすが通るには^{やく}約90cmの^{つうろ}通路の幅が必要^{はば}です。車いすが通れる幅があるか、段差がないかなど^{ぶつりてき}物理的バリアのことを考えてみよう。

心のバリア

席を譲ってみよう

電車やバスでは、^{こうれいしゃ}高齢者など^{はいりょ}配慮が必要な人に^{ゆず}席を譲ってみましょう。

マタニティマーク



見守ってみよう



心のバリア



ヘルプマーク
外見からはわからないけど配慮を必要としている

こどもや知的障害を持った人は、突然走り出したり、大声を出すことがあります。危ない状況でなければ見守ってください。

ひょうじ

表示をわかりやすくしてみよう

視力の弱い人でも読みやすい、大きな字や色の使い方を考えてみよう。

情報のバリア

あいうえお
↓
<コントラストをつけると>
あいうえお

自分が困ったときは助けてもらえるし、誰かが困っていたら助けてあげる。身近なことから始めてみましょう！



施設で働いている中山さん



民生・児童委員 水田さん

自分の地域で暮らす人に、どんな支援が必要な人がいるのかわかることからはじめてみるのもいいですね。

まちの中にある工夫を見てみよう

まちの中には、みんなが出かけやすくなる工夫がたくさんあります。明石駅前にあるバリアフリーの工夫をいくつか見てみましょう。

明石で暮らす人も、明石を訪れる人も、みんながまちの魅力を感じてくれると嬉しい。

身体に障害がある飯塚さん



JR明石駅のホームドア

明石駅の3・4番線のホームにはホームドアが設置されています。目が見えない人だけでなく、こども連れの人や高齢者も安心してホームを歩けるようにするための工夫の一つです。



あかし案内所

みんなが利用しやすい公共トイレや、授乳やおむつ交換ができる子育てサポート室を備えています。国の「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の第1弾として、県内で唯一認定されました。

みんなが外食を楽しんだり、お買い物をしたり、行きたいところに行けるまちに。

商店の人

障害のある人と一緒にまちを

歩いて歩道の安全を確認

まちにあるき



点字や音声で案内します (触知案内板)



駅前広場に設置された触知案内板は、点字や音声で周辺の情報を提供しています。こどもや車いす利用者、お年寄りも見やすい高さになっています。



乗り降りしやすいノンステップバスも増えています。何かお手伝いが必要なときは、遠慮なく声をかけてください。

バスの運行状況を知らせる電光案内板

音声アナウンスが聞こえない人が運行状況を確認できる工夫です。

交通機関で働く日野さん

表示をわかりやすくする工夫



パピオスあかしの案内板



駅前広場のにじいろ階段

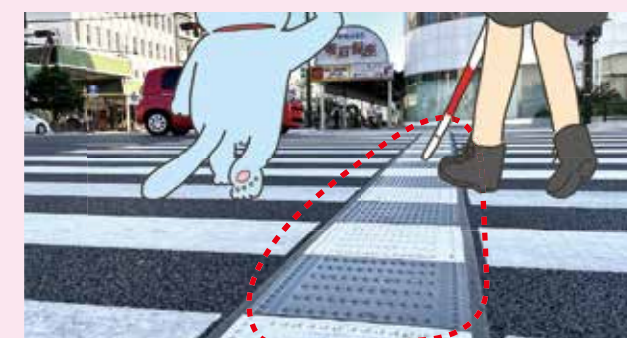


駅前の点字ブロック

白黒反転した案内板の文字や、色を変えてコントラストをつけたタイルは、弱視の人も見えやすくするための工夫です。階段の手すりには点字の案内表示もあります。

点字ブロックの周りに濃い色のタイルが敷いてあるのは、弱視の人でも点字ブロックが見えやすいようにする工夫なんです。

兵庫県立福祉のまちづくり研究所 特別研究員 福井さん



横断歩道にあるエスコートゾーン

横断歩道の真ん中に、点字ブロックのような凹凸があります。目が見えない人、目が見えにくい人も、安心して横断歩道を渡れるようにするための工夫です。

まちでマークをさがしてみよう！



施設の入り口や窓口、駐車場などで見かけるよ。



障害者のための国際シンボルマーク

障害のある人が利用できる建物や施設であることを明確に示すための世界共通のシンボルマーク



盲人のための国際シンボルマーク

目に障害がある人の安全やバリアフリーを考えられた建物や設備につけられるマーク



耳マーク

耳の聞こえない人、聞こえにくい人のことを表すと同時に、筆談対応ができることを表すマーク



オストメイトマーク

お腹に人工肛門・人工膀胱をつけている人のための設備が備わっているトイレなどに使われるマーク



ほじょ犬マーク

病院やレストランなど施設を盲導犬、介助犬、聴導犬と一緒に利用できることを表すマーク

もっとお出かけしやすいまちに

いっしょ せいど
～みんなで一緒に考える制度ができました！～



みんなで一緒に考える！

インクルーシブアドバイザー制度

2022年スタート

明石市には、利用しやすいお店や施設、参加しやすいイベントなどバリアフリーについて一緒に考える「インクルーシブアドバイザー」がいます。気軽に相談してください。

ないとき…

お店の人

バリアフリー改修したいけど…何をすればいいの？いくらかかるの？

お客さん

段差があってもお店に入れないわ…

ご相談ください

私たちインクルーシブアドバイザーと一緒に考えます！

相談の内容に応じて、障害がある人や高齢者などがアドバイザーとしてお聞きします。

あるとき!!

お客さん

段差がなくなると通路の幅も通りやすいわ！

ほか

他にもこんな相談もお受けします

- ・妊婦や高齢者も、もっとイベントに来てほしい
- ・目や耳の不自由な人にも情報を伝えたいなあ

DPI 日本会議副議長 尾上さん

私たちのお店でもできることから少しずつはじめています。市内にも広がってきました。



こんな制度もあるヨ！

点字メニューや筆談ボードなど設置する費用を助成します

(合理的配慮の提供を支援する助成制度)

障害のある人もない人も安心してお店を利用できるように、点字メニューの作成や筆談ボード、折りたたみスロープの設置、手すりを付ける費用などを市が補助する制度もあります。

聞こえない人がお店に行ったとき、あたりまえに筆談ボードが置いてあると安心します。

耳に障害がある 中嶋さん

手すりあります

段差はありません

点字メニューあります

筆談ボードあります

詳しくはこちらから

地域の学校で一緒に学ぶ

インクルーシブ教育の推進／第12条

すべての子どもたちが地域の学校で一緒に学べるよう、
環境の整備や専門的人材の育成に努めます。

- 例) ・学校のエレベーターやスロープの設置
・特別支援教育指導員や看護師の配置

困っている友達がいたら、
助け合う。そういう
環境であれば、みんなが
安心して一緒に学べる
と思います。

教育関係者
公家さん

災害が起こったときに助け合う

災害時要配慮者の支援等／第13条

災害時に要配慮者の安全が確保できるよう、地域住民
同士のつながりを強化するとともに、市、市民、事業者、
関係機関等の連携を強化していきます。

- 例) ・要配慮者を含むインクルーシブな防災訓練の実施
・災害時人工呼吸器バッテリー等助成事業

お気軽にご相談ください

総合相談支援体制の整備等／第14条

障害者等からの相談に総合的に対応できるよう、
相談体制を整備し、障害者等の抱える課題が
深刻化する前に解決に導きます。

- 例) ・地域総合支援センターを含む相談体制の検討

うまくいかないことが
あっても、みんなで一緒に相談
しながら考えていける。
そういう仕組みがあれば、
いろんな取組が
持続していくのかな。

難病がある
横川さん

地域での暮らしを支援

地域生活の支援／第15条

障害者等が地域で安心して快適に生活するため、
高齢者・障害者の住まいの確保や支援サービス等
地域での暮らしの支援に関する取組を推進します。
また、その推進のために必要な人材を確保し、
育成します。

- 例) ・グループホームの整備に係る助成制度
・福祉人材を対象とした研修の実施

自分に合った仕事をみんなに

障害者等に対する雇用及び就労の支援／第16条

障害者等の就労環境を整備するとともに、
それぞれの特性に応じた適切な就労機会
の確保に努めます。

- 例) ・障害者活躍推進計画の策定
・チャレンジ・ウィークの実施

障害があってもやりたい
仕事ができるということは大切です。ね。
チャレンジできる機会がみんなに
与えられることを願っています。

施設で働く
鳥居さん

インクルーシブがもっと
まちに広がっていきます

安心して利用できる施設に

地域生活関連施設の整備等／第17条

学校や病院・駅など不特定多数の方が利用する施設を、誰も
が安全で快適に利用できるように、施設の整備にかかる支援
や、施設職員への研修など必要な取組を推進します。

- 例) ・明石市ユニバーサルデザインのまちづくり実行計画の策定
・ユニバーサルマナー研修の実施

どんな取組を進める
にも、関係する人がしっかりと
連携して取り組んでいく
ことが大切だと思います。

医療関係者
日下さん



行きたい場所に安全に移動できるように

移動手段の確保／第18条

すべての市民が安全に安心して移動できるように、
切れ目のない移動手段の確保に努めます。

- 例) ・JR 明石駅・西明石駅へのホームドアの設置
・UD タクシーの導入補助

安心して出かけられることは
インクルーシブの大切な要素。
切れ目のない移動手段をしっかりと
確保して行ってほしいです。



大学の先生
明石ユニバーサルデザインの
まちづくり協議会 会長
三星さん

身体に障害がある
施設で働いている
内藤さん



フットサル(大蔵海岸)

障害のある人もない人も
一緒に楽しめるスポーツ
もありますよ!

ユニバーサルデザインのまちづくり

移動等円滑化促進方針及び基本構想との関係／第19条

令和2年に策定した移動等円滑化促進方針や
今後策定を予定している基本構想に基づき、
ユニバーサルデザインのまちづくりを推進していきます。

- 例) ・生活関連経路や生活関連施設の
面的なバリアフリー化の推進

旅行を安心して楽しめるように

ユニバーサルツーリズムの促進／第20条

障害の有無や年齢、性別等に関わらず、誰もが
旅行を安心して楽しむことができる環境を整備し、
ユニバーサルツーリズムの普及促進に努めます。

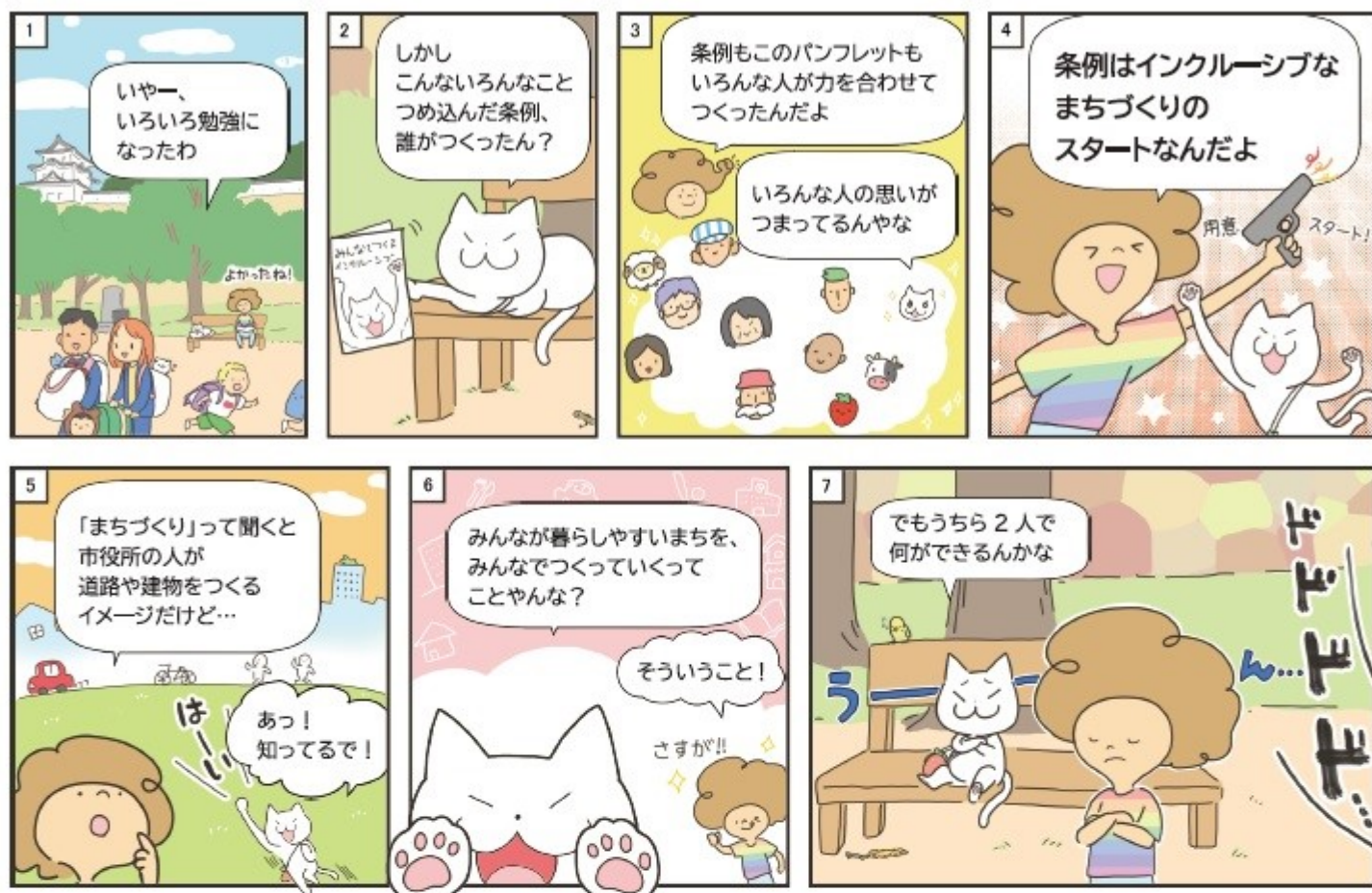
- 例) ・障害者や外国人が参加しやすいモデルツアーの実施
・宿泊施設等従事者へのユニバーサルツーリズム研修の実施

性的マイノリティの方や
子育て中の方など、
みんなが安心して
暮らせるまちになってほしい。



施設で働いている
飯塚さん

そして、まちづくりはつづく...



この本を手にとってくれて
ありがとう！

明石のまちがどんな未来を
目指していくのか、
一緒に考えてくれて
ありがとう！

これからもみんなで一緒に
すべての人が自分らしく
生きられるインクルーシブな
まちづくりを進めていきましょう！

条例はスタートです！
「いつまでもやさしいまち」に
なるためには、それが続いていく
ための仕組みづくりが必要。
みんなで一緒に
取り組んでいきましょう！



大学の先生
竹端さん

みんなで一緒に考えれば
いいんだよネ！



お問い合わせ

明石市市民生活局インクルーシブ推進課

〒673-8686 明石市中崎1丁目5番1号

TEL 078-918-6037 FAX 078-918-5617

✉ inclusive@city.akashi.lg.jp